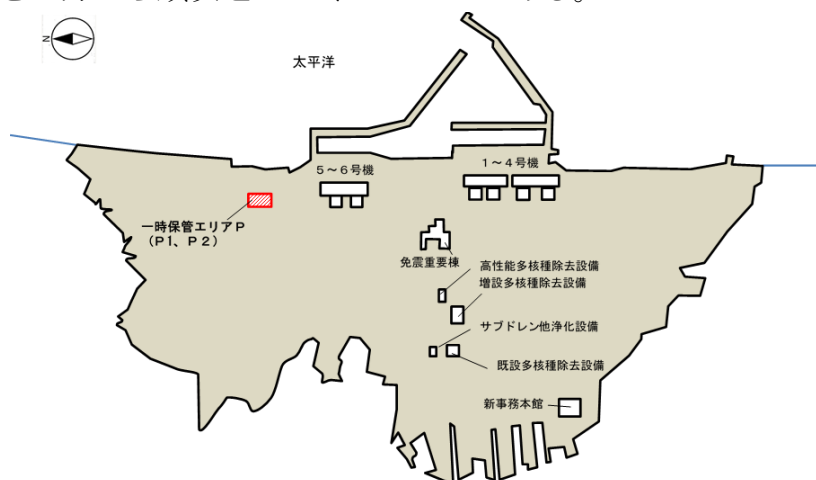


福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日
令和3年8月27日（金）
- 2 確認箇所
瓦礫類一時保管エリアP及びその周辺
既設多核種除去設備周辺
- 3 確認項目
瓦礫類一時保管エリアP排水柵における全ベータ値上昇事象への対応状況
- 4 確認結果の概要

本年7月に瓦礫類一時保管エリア（以下「一時保管エリア」という。）Pの排水柵において高い全ベータ値が検出された事象は、その後の東京電力の調査により、ノッチタンクの蓋がずれたことによって雨水が浸入し、放射性物質を含む水がタンクから溢水、排水柵に流れ込んだことが原因であると推定されている。この事象の対応として、一時保管エリアではノッチタンクやコンテナの養生が進められており、今回はその状況を確認した。（図1）

- ・一時保管エリアP及びその周辺ではタンク、コンテナが白いシートで覆われていた。確認した範囲では、特にシートの破れや固縛の不十分な点などは見られなかった。（写真1、2）
- ・既設多核種除去設備の近くに、近傍に溜まった雨水を排水するために使用しているノッチタンクや、使用されていないノッチタンクが置かれており、養生状況を確認した。こちらでも特に養生の不十分な点は見られなかった。（写真3）
- ・東京電力資料によれば、現在のシート養生は仮設のものであり、本格シート養生を10月から順次進めてくとのことである。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
一時保管エリアPにおける
タンク、コンテナの養生状況①



(写真1-2)
一時保管エリアPにおける
タンク、コンテナの養生状況②



(写真2)
一時保管エリアP周辺における
タンク、コンテナの養生状況



(写真3-1)
既設多核種除去設備周辺のノッチ
タンク



(写真3-2)
既設多核種除去設備周辺ノッチ
タンクの養生状況①



(写真 3 - 3)
既設多核種除去設備周辺ノッチ
タンクの養生状況②

- 5 プラント関連パラメータ等確認
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。